

# Voyage

社会福祉法人ラフトの広報誌  
ヴォヤージュ

2026.5.31

VOL. 3



## 目次

ムニユット展の向こう側 P2 ~ P5

コーラルの新商品 P6 P7

職員インタビュー P8

ラフトの研修ってどんな感じ? P9

管理者の独り言 P10 P11

事業所のご紹介 P12

## 社会福祉法人ラフト

Voyageは航海記を意味します

表紙：自ら染め上げた布がコーラルの商品となり、お母様が購入して素敵なパッチワーク作品に。  
その作品を手に、とてもうれしそうな表情を見せてくれた明石啓汰（あかしけいた）さん。

# ムニユツと生まれる表現

コーラルの作品庫は、開設から6年の月日を経て、作品がぎっしりとひしめき合っていました。

そして、ある利用者の方は創作活動に取り組みながら、「コーラル作品展？」と作品展を開催したい気持ちを伝えてくださっていました。「いいですね〜」なんて返答していたのですが、「（できたら）いいですね」じゃなくて「作品展、開催しましょう！」と意を決して動き始めたのは昨年春のこと。

作品選びにあたっては、作者らしさを感じられるものや、なぜか心が惹かれる、そんな作品を職員みんなで語らいながら選びました。

そんな中で「表現って何だろう？」と話していた時に、一人の職員がこう言いました。

「自分も含めて誰もがそれぞれに抑圧されているところはあって、本当に自由なのかっていえばそんなことはなく。でも、表現ってそういうところから『ムニユツ』と生まれてくるんじゃないかな？」と。



## ムニユツ展の向こう側

2026 3/3~3/8

コーラル・ムニユツ展  
船橋市民ギャラリー  
第2展示室





## 「つくる」から広がっていくこと

作品の前でパチリ!!  
表現はその人そのもの。



作品展名には「アール・ブリュット」（※美術教育に影響されず独自の衝動のままに制作された表現）の言葉と、この「ムニユット」という言葉をかけ合わせた「コーラル・ムニユット展」という言葉が生まれ、採用されたのでした。

ムニユット展を見に来てくださった方からは、「作品一つひとつから作者の存在を感じることができた」「一緒に掲示していたエピソードから、創作の様子を想像することができた」という感想なども聞かれました。

今、世の中では「障害者アート」と呼ばれる作品がたくさん紹介され、そんな中から一人ひとりの想いや多様性が尊重される社会が少しずつ広がっているのではないかと感じています。

日常から生まれてくる表現を通してコミュニケーションが生まれ、社会とのつながりが育まれていく、コーラルはそんな場所でありたいと思います。

(コーラル山本)



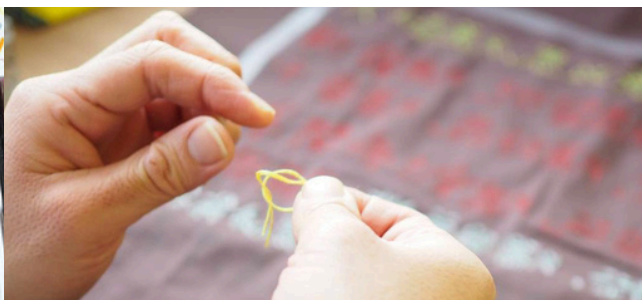
## QUESTION!

### 『どんな風に創作しているの?』

利用者様によって、創作の楽しみ方や向き合い方は様々です。例えば、絵の具を使って活動するとき。ある方は、自席で鼻歌を歌いながら、ポンポンっと絵の具を画用紙に載せていきます。ある方は、両手にたくさん絵の具をつけて、手形を押してみたり、指先で不思議な図形を描かれたりされます。ある方は、共同制作中の方との会話を楽しみながら、いっばいに広げた大紙に、絵を描かれたりするなどと様々です。

利用者様の活動を拝見していますと、創作は一人でもみんななどでも楽しむことができます。時には人の輪の中で、お互いを気にせず、別々のことを楽しんでも良いのだということに気付かされます。そして、アートをしています、していません、なんとなく同じ空間で、過ごすことができる場所が、コーラルなのだなと思いました。職員の私も、利用者様のアート活動の空間にいるだけで、ここにいて良いんだと、居場所を頂けた気持ちになるのです。

(コーラル大丸)



## QUESTION!

『どんな画材を使っているの?』



### 絵画のようなパレット

出したての絵の具と痕跡を眺めていると、まるでキャンバスに描かれた絵のようにも見えます。アート活動の思い出がたくさん詰まったパレットです。

### 咲いた筆先はたくさん使った証

長く使い込まれた筆たち。気がついたら、毛先が花のように開いているのがコーラル流です。開いた毛先を活かして描かれた作品も多数誕生しました。



### わくわくが詰まった絵の具たち

大作の制作や大人数で創作するときには大活躍な、ボトル型の絵の具です。たくさんの色が並んでいると、わくわくした気持ちが湧いてきます。今日は何色で描こうかな。





# 2026 summer CORAL T-shirt

今年の世界の画伯、ゴッホ、ダリ、そしてコーラルで生まれた  
キャラクターたちと夏の定番ウォーターメロン！

とびきりのユニークでナイスなTシャツが揃いました！！  
ぜひ、お気に入りの1枚を見つけてアツい夏を楽しんじゃいましょう！



## CORAL T-Shirt Lineup

- ① ゴッホ  
©Takuya Kuniyoshi
- ② ダリ  
©Takuya Kuniyoshi
- ③ SUKI・SUKI  
©Haruka Ohtaki
- ④ ウォーターメロン  
©Masayasu Takao
- ⑤ ボーダー・ボーイ  
©Ken Hirata

各 2,500円 (税込)

サイズ (男女共用)  
S・M・L・XL  
素材・綿100% (United Athle)

# MADE IN CORAL

Live together  
CORAL

NEW! ITEM

コーラルの商品は、事業所内ギャラリーショップや、コミュニティカフェひなたぼっこ（船橋市本町4-31-23）にて販売しています。また、メールやInstagramでもご注文を承ります。（送料は別途申し受けます）

mail・coral@raftnet.org  
tel・047-401-6460

① コーラル・アース  
© Seiki Kusumoto



② コーラル・フィッシュ  
© Masayasu Takao



③ コーラル・ホエール  
© Yui Nakajima



④ コーラル・マン  
© Takuya Kuniyoshi



トートバッグ 各1,200円 (税込)

サイズ：たて38cm×よこ33cm

press! press! press!  
ヒートプレス機を使って  
オリジナルの商品を作ってるよ!

① コーラル・クラフト  
© Yukiko Miyazaki



② コーラル・ムニュット  
© Hiroki Sakamoto



③ コーラル・バーガー  
© Kouhei Takeda



④ コーラル・ピープル  
© Takuya Kuniyoshi



ポーチ 各500円 (税込)

サイズ：たて14cm×よこ20cm

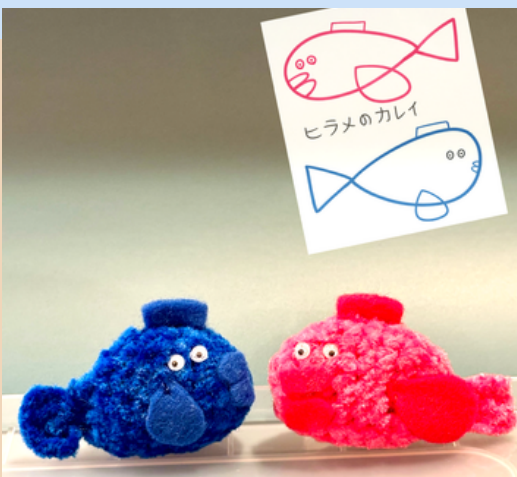


HAND MADE!  
マスコットバッジ  
各800円 (税込)

サイズ：たて3cm×よこ5cm

© Yui Nakajima

「この絵をぬいぐるみにしてほしい！」  
(ヒラメのカレイ)  
「こんなクッションがあったらいいな」  
(駅名刺しゅうシリーズ)  
ムニュット展でいただいたご意見から  
商品が生まれました!  
いかがでしょうか?



刺しゅうクッション  
2,500円 (税込)

サイズ：たて45cm×よこ45cm

© Takuya Kuniyoshi

# 職員インタビュー

令和8年  
5月

## その人らしい暮らしと、笑顔を大切に・・・

グループホームラフト所属の高野学です。  
ラフトに入職する前は、市内の生活介護事業所で  
約7年間勤務していました。

福祉の仕事に就く以前は、エクステリアの営業や  
飲食店の見習いなどの経験をしてきました。

福祉の道に進むきっかけは、「人の支えになりた  
い」という思いを持っていた中で、映画『パッ  
チ・アダムス』に心を動かされたことです。

「人の笑顔を引き出したい」という気持ちで、こ  
の仕事に飛び込みました。  
その思いは今も変わらず、利用者様との関わりの中  
では「笑顔」を大切にしています。

ラフトに入職して感じたのは、法人の掲げる理念  
や行動指針を大切にしながら、固定観念にとらわ  
れず学び続けているところです。

職員一人ひとりの姿勢からも気づきを得ながら、  
私自身も日々成長させてもらっています。  
また、グループホームは単独業務が中心ではあり  
ますが、チームで支え合っている安心感があり、  
前向きに業務に取り組んでいます。

これからも、利用者様がその人らしく安心して過  
ごせるようサポートしていきたいと考えていま  
す。今後ともよろしく願いいたします。



このまなぶ  
**高野 学**

2020年入職 / グループホームラフト  
(サービス管理責任者)

趣味：野球を始めた息子とキャッチボ  
ールを楽しむこと。マイグローブも購  
入し、懐かしさを感じています。

はなき たかひろ  
**花木 隆宏**

2022年入職 / コーラル 生活支援員

趣味：サッカー観戦（日本代表を応援・最近はサッカーを  
する機会はありませんが、いつかまた再開できるよう、  
写真のサッカーシューズを大切に保管しています。）、映  
画鑑賞（アクション派。好きな映画は『ダイ・ハード』）



## 関わりの中で自分を振り返る

コーラルの花木隆宏です。  
令和4年にアイルに入職し、事業所の統合後  
は、コーラルに所属しております。

幼少期から大学時代までサッカーに明け暮れて  
いました。今年のワールドカップもたのしみ  
にしています。

この仕事に携わるきっかけは、中学時代の恩師  
から知的障がいのある方とのボランティアに誘  
っていたいただいたことでした。そこから関心を持  
ち、大学では福祉を専攻しました。

今振り返ると、当時は「誰かの役に立ちたい」  
という気持ちを強く抱いていたのだと思いま  
す。

今ではコーラルの皆様と関わることで、私自身  
も支えられていると感じております。

入職した当時はコロナ禍で、感染症対策に気を  
張る日々が続きました。その後、少しずつ外出  
活動もできるようになり、利用者様とも徐々に  
理解を深められました。また、普通に昼食を食  
べたりウォーキングをしたりできることが、  
とても嬉しかったのを覚えています。

統合を経て、利用者様も増え、日々皆様が生  
掛けてくださることを、福祉を始めた当初より  
うれしく感じております。

これからも活動の中で、色々な発見と喜びを皆  
様と共に感じていければと思っております。  
これからもどうぞよろしく願いいたします。

# ラフトの研修ってどんな感じ？



## 法人所属の職員大集合！「全体研修」（虐待防止研修含む）

社会福祉法人ラフトでは、年に一度、全職員の約9割が参加する全体研修を開催しています。今年度は、「各種報告書（事故・再発防止・ヒヤリハット・サービス向上）の分析（サービス向上委員会）」「各事業所における好実践事例の発表（編集委員会）」「千葉県長生村事件について考える（虐待防止委員会）」「意思決定支援をテーマとしたグループワーク（サービス向上委員会）」を主な内容として実施しました。当日は緊急時を除きサービス提供を制限せざるを得ない状況となりますが、本研修は、職員にとって他事業所の職員と交流する貴重な機会となっています。また、研修を通して法人理念を再確認し、職員一人ひとりが同じ方向を向くための大切な時間でもあり、法人の成長に欠かせない取り組みです。研修の企画・運営を担う職員の継続的な工夫により、その内容は年々充実しています。今後も可能な限り実施していく予定です。



## 各委員会が企画する研修

### 感染症対策委員会

- ・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修（8月実施）
- ・平時から実践する感染症対策の基本（10月実施）
- ・感染症BCPについて（10月実施）

### 防災委員会

- ・自然災害BCPについて（9月実施）

### 身体拘束適正化委員会

- ・なにが身体拘束にあたるのか（7月実施）
- ・身体拘束をしないで済むには（7月実施）

### ハラスメント防止委員会

- ・介護現場におけるハラスメントに関する職員研修（11月実施）
- ・パワハラを生みやすい「べき思考」との向き合い方（11月実施）



## 毎月実施 動画研修

社会福祉法人ラフトに所属する職員に対しては、毎月、動画を活用した研修を実施しております。

令和7年度は、「緊急時の対応」「構造化」「口腔ケア」「プライバシー保護の基礎」「受給者証の有効期限と更新時の注意点」「強度行動障がいという状態への理解」「介護施設におけるマナーとコンプライアンス」「てんかん発作の対応」「業務標準化」「個別支援計画の目的の確認」「グループホームの役割」「5S活動」「腰痛予防」などを、職員全体で学んでおります。



## 法人内外の職員が参加する「ざだんかい」

「ざだんかい」は、ラフトが約12年前から主催している、どなたでも参加できる研修です。所属や立場、経験、職種、地域を越えて、それぞれが「誰かのため」ではなく「自らのため」に参加できる場として続けてきました。参加された方が、たったひとつの「正解」を求めるのではなく、小さなヒントをたくさん持ち帰れるような研修を目指してきました。令和7年度も又村あおいさんをお迎えし、令和8年2月1日（日）に第19回ざだんかいを開催しました。テーマは「どうなる？入所施設やグループホームの未来～減らせるのか？！増やせるのか？！～」。市川圏域障害者グループホーム等支援ワーカーのお二人にもお越しいただき、グループホームの現状や課題についてお話いただきました。コロナ禍以降は、会場（法人本部）とZoomを併用したハイブリッド形式で開催しており、地方からの参加も広がっています。

## 管理者研修

令和6年1月から令和8年3月までをシリーズとして、エラーニングシステムを活用し、管理者として求められる基礎的かつ実践的な知識および視点の習得を目的として、管理者研修を実施しました。対象は、サポート&サービスラフトおよびコーラルの管理者です。主な内容は以下のとおりです。

- ・組織の考え方（理念・ミッション）
- ・マネジメント（人材育成・リーダーシップ）
- ・事業運営（労務・会計・リスク管理）
- ・改善と成長（評価・SWOT分析・今後の事業運営）

【予告】令和8年度 記念すべき第20回ざだんかいの開催日が、令和9年3月28日（日）に決定しました。今回も又村あおいさんにお越しいただく予定です。多くの方のご参加をお待ちしております！

## 管理者の独り言

今日のお題 「生きるって」



つちや じろう / コーラル

ラフトに入職してひと月も経たない頃、祖母を看取りました。

祖母は亡くなる数週間前から地元の大きな病院に入院しており、その頃わたしは、週末になると実家へ帰り、お見舞いに行く生活をしていました。

その日は日曜日でした。一週間前には満開だった桜が、少しずつ散り始めていたと記憶しています。

一緒にお見舞いに行った母と病院内の喫茶店で昼食を済ませると、わたしはひとり、病室に戻りました。祖母は昏睡状態が続いています。次の週末まではもたないかもしれない。そんな気がして、その日はできる限りそばにしようと思ったのです。

ベッドの脇の椅子に腰かけ、本を読んだり微睡んだりしながら、日だまりのような午後の時間は過ぎました。夕方になるまで、祖母は穏やかに眠り続けていました。

窓の外もだんだんと暗くなってきました。翌日からの仕事に備え、そろそろ帰ろうと思ったわたしは、祖母の耳元で「また来るね」と声をかけました。

祖母とは、生まれたときからずっと一緒に暮らしていました。

わたしが一人暮らしを始めたあとも、たまに実家へ寄ると喜んでくれ、帰り際にはいつも「もう帰るのか。もっといればいいのに」と、残念そうに玄関先まで見送ってくれたものでした。そんなとき、わたしはきまって「また来るね」と返していました。

「また来るね」

まるで、その言葉を待っていたかのように。ここ数日、どんなに話しかけても反応のなかった祖母が、顔をこちらに傾け、すうーっと深く息を吸い込みました。

次の瞬間、皺だらけの顔でくしゃっと笑い（わたしにはそう見えた）、そのまま、静かに息を引き取りました。

祖母の生きた96年の生涯とはどんなものだったか。

戦争をじかに経験し、苦労したことなんて山のようにあったらと思う。

当時二十代後半だったわたしにはとてもじゃないけれどはかり知れないような人生の重みを、死ぬ間際、くしゃくしゃの笑顔にかえて、軽々とバトンタッチされたような気がした。

確実に、何かを手渡されたという感覚があった。

あの日手渡されたバトンは、今もわたしの手の中にある。

バトンとはつまり、生きるということ。

その意味を、考え続けている。

最後に。最近読んだ本を紹介したいと思います。

写真家であり探検家、星野道夫さんの『旅をする木』という本の中に、こんな一節がありました。

「人間の風景の面白さとは、私たちの人生がある共通する一点で同じ土俵に立っているからだろう。

一点とは、たった一度の一生をより良く生きたいという願いであり、

面白さとは、そこから分かれてゆく人間の生き方の無限の可能性である。」

【最近のベストバイ】

房総の郷土玩具、芝原人形の桃。桃太郎や猿犬雉、きびだんごなどが描かれており、大変可愛らしい。振るとコロコロと音が鳴るのが芝原人形の特徴です。窯元で年に2回ひらかれる展覧会に、かれこれ10年以上、毎年欠かさずに通っています。



窓を開けて寝ていても、気持ちのよい今日このごろ。

朝、鳥のさえずりで目を覚まし、体を伸ばしてから布団をしまう。

豆を挽く。お湯が沸いたらコーヒーを入れる。グアテマラ産なのか、どうりで美味しいと思った。

さて。前々から約束していた友人とのご飯。その前に1本だけ映画を見よう。

SF映画は変わらず好きだし、友人とも話が弾む。そんな1日を思い返しながら帰宅する。

・・・というのはひとつの理想かもしれないけれど、残念ながら、私のではない。  
みな、こんな風に過ごしているのだろうかとも考える。

現実の私は、警報みたいなアラームをかけなければ延々と寝てしまうし、ドリップコーヒーも、「こちらは厳選された豆を使用しています」と解説されて飲んだコーヒーであっても、言われなければ違いに気付かず、提供されたものはすべて「おいしい、おいしい」と飲んでしまう。友人と学生時代の思い出や近況の話でお酒はすすむけど、布団に入ったら一瞬で眠ってしまうだろう。日々を大切に感じて休日を充実させたり自分の趣味を楽しんだりするのは、どうも苦手だ。

どこかへ出かけるのも良いけれど、ラジオを流しながら洗濯をし、道ゆく人と目が合って、多少気まずくても、部屋の窓からポーッと外を眺めるのもいい。それに「今日はどこ行こう?」「何するんだろう?」と考えながら利用者さんと過ごし、あれもこれもと仕事に没頭していたりする方が、自分にとってはしっくりくる。「充実しているな、生きているな」というよりは、「お!頭と体、今日も動いているな」と思う。

仕事からの帰り道には、電車でも自転車でも、なぜか近くに牛丼屋が現れる。そんなときはだいたい空腹で、足もちょっと痛かったりする。ここで食べる牛丼1杯が何よりも美味しく、日々の生きる糧となっているような、そんな気がする。

大人になってからは、「知的に」「障害がある」と言われている人たちと日々関わりながら生きてきた。

「生きる」ってどうかこうとか、きっと考えていない。・・・と思われる彼、彼女たち。

ときどき誰よりもたのしそうで、ときどき本当にしんどそうで、ときどき・・・

彼らとの日常は、「生きるって、こういうことだよ!」って、学校でも、ベストセラーの本を読んでも、著名人の講演でも教えてくれないことを、これでもかって教えてくれる。

『人は、自分の人生しか生きられない。』

そんなあたりまえのことに気づいたとき、私は私なりに「障害がある」と言われている人たちと精一杯生きていた。だからこそ、とつてもたのしくて、時にはそれなりにしんどい日々を、私は生きていた。

そして、知った。

もしかしたら知らなかったのは私だけだったのかもしれないけど、やっと知れた。

『自分の人生を生きられるのは、自分だけ。』

たくさん間違えてきた分、たくさん助けられてきたこの人生を、私はこれからも、生きる。

ありがとう。

これからも、よろしくです。

【最近のベストバイ】

これまで使っていたものが壊れてしまって、買い換えたばかりのコーヒーマーカー。たっぷり淹れたコーヒーを、牛乳と氷を入れたグラスに注ぎ、アイスカフェオレにして一日の始まりに飲んでます。





“いっしょに生きる”という理念の下、社会福祉法人ラフトは、



障害のある方の暮らしをささやかに支え続けます。



## 01

### ヘルパー派遣事業

#### サポート&サービスラフト

実施事業：行動援護 居宅介護 重度訪問介護  
移動支援（船橋市） ナイトケア タイムケア  
※提供するサービスの約95%が外出支援です。

契約者数：94名（令和8年5月現在）

所在地：船橋市習志野台1-11-4 三和医療ビル2階（201）

連絡先：TEL 047-401-0740 raft@raftnet.org



## 通所事業 02



### コーラル

実施事業：生活介護 日中一時支援（船橋市）

定員：30名 契約者数：50名（令和8年5月現在）

所在地：〈主たる事業所コーラル〉船橋市高根台6-27-10

〈従たる事業所コラリウム〉習志野台1-11-4 2階（202）

〈従たる事業所うる〉海神4-1-9-3

連絡先：TEL・FAX 047-401-6460 coral@raftnet.org

## 03

### グループホーム事業

#### グループホームラフト

実施事業：共同生活援助（介護サービス包括型）

定員：14名

所在地：船橋市丸山・海神（ポートⅠ・Ⅱ・Ⅲ）

※ポートⅠ・Ⅱについては、重度の障害がある方を対象としており、  
自動消火設備を設置しています。

連絡先：TEL 047-497-8037 port@raftnet.org



## 相談支援事業 04



### 相談支援センターラフト

実施事業：計画相談支援

契約者数：68名（令和8年5月現在）

所在地：船橋市習志野台1-11-4 三和医療ビル2階（201）

連絡先：TEL 047-401-0740 FAX 047-401-0278

soudan@raftnet.org

## 05

### 法人本部

#### 事務局

法人の事務全般を担っています。

所在地：船橋市習志野台1-11-4 三和医療ビル2階（201）

連絡先：TEL 047-401-0740 FAX 047-401-0278

raft@raftnet.org

